



＊ホームページでも情報発信

下都賀教育事務所ふれあい学習課

Q 検索



【発行】 下都賀教育事務所ふれあい学習課
【Tel】 0282-23-3422
【E-mail】 shimotsuga-hureai@pref.tochigi.lg.jp

～地域をつなぐふれあい学習～

下野市

生涯学習文化課

「下野ジュニアリーダースクラブの活動について」

中高生で構成される下野ジュニアリーダースクラブでは、自分たちの好きなことを見つけるため、そして得意なことをさらに向上させるために地域の様々なイベントに参加し、運営のお手伝いをしております。令和6年度では、市内の児童館まつりや地域コミュニティのイベントにボランティアスタッフとして参加し、地域を身近に感じられる貴重な機会に携わることを通して、大変有意義な経験を積むことができました。ジュニアリーダースクラブの活動を通じた、新たな「つながり」の中で価値観の多様性を学び、「自分らしさ」を確立していくことができます。様々な人々と様々な場面で目的をもって自分の役割を果たすことで、自信を得ることができ、地域社会への関わりを深めていける「居場所」の一つとして、ジュニアリーダースクラブの活動があります。



下都賀地区地域コーディネーター養成研修



全3回の本研修は、互いに育ち合うことができる豊かな人間関係（『育ちあう絆』）づくりと、学校・家庭・地域の教育力向上を図るため、地域と学校の関係づくりを担う地域コーディネーターの役割等、基本的な知識や技術の習得を目指し実施しました。初回は、「学ぼう！地域連携の意義」をテーマに、地域コーディネーターに期待される役割は何かについて学びました。第2回は、現地研修として、それぞれの地域の社会教育施設等に出向き、地域社会とのつながりを広げました。最終回は、実際に学校からオファーがあった場面を想定し、コーディネートの手順を確認しながら計画を立てることで、実践的に学びを深めました。今年度は、地域でコーディネーターの役割を担っている方だけではなく、地域連携教員の先生方も参加し、それぞれの立場から、所属する地域・学校のため、多くの学びを得ようと積極的に関わる受講者の姿がみられるなど、充実した研修となりました。



【参加者の感想】

- ・情報収集からのスケジュールの組み立てを18のステップごとに明確にさせていただき、今後の取組に役立つものとなりました。
- ・様々な立場の方とお話することができました。学校側の立場では気付かないことがたくさんありました。有意義な時間になりました。

地域連携教員全校設置10周年②

令和6年度の共同訪問でお伺いした各学校の中から、今後皆様の学校、地域において地域学校協働活動を行う上で参考となりそうな事例を御紹介します。お役に立てれば幸いです。

- ・学校だよりには、毎月「地域連携コーナー」を設け、写真等を用いて学校と地域が連携・協働した取組についての情報発信を行っている。
- ・地域の公民館と連携し、公民館主催での家庭教育に関する講座を行っている。
- ・中学校3年生の受験前には、ボランティアとして学校運営協議会の委員が面接の練習を行っている。
- ・学校運営協議会やPTAが主体となって開催するイベントを行っている。
- ・地域の奉仕作業を、小学生、中学生とその保護者はもとより、学区内の高校の生徒や企業等、地域の人々と一緒にやっている。

～共生社会の実現に向けた取組～

栃木市

障がい福祉課

「社会参加促進事業」

栃木市では、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて、「障がい者等社会参加促進事業」を「栃木障害者の自立をめざす会」の協力のもと実施しています。この事業は、障がい者が車いすダンス、写真撮影会、料理教室、カラオケなどの様々な体験を通して、社会と繋がり、生きがいをもって暮らしていけることを目指しています。また、健常者と障がい者が一緒に活動することで、障がいや障がい者についての理解を深めるとともに、地域で暮らす仲間として共に学び合うことのできるよい機会となっています。今後も多くの方が気軽に楽しく参加できるよう、活動内容の充実を図っていきたいと考えています。



下都賀地区ふれあい学習ネットワーク 兼下都賀地区生涯学習研究会第2回研修会

2月4日（火）、小山市立生涯学習センター（えるる OYAMA）にて、障害のある人もない人も共に学ぶ体験交流会として、標題の研修会を開催しました。今年度は、多様な個人が開かれた学びの場の必要性について考えるとともに、共生社会の実現に向けた実践のきっかけとすることを目指して、「つくって、動いて、役に立つ！笑顔たっぷり交流活動」を実施しました。各方面から多くの方の賛同を得て、交流会の講師やボランティアに協力をいただきました。また、事業所の利用者や、学校・行政・福祉関係者等のほか、共生社会に興味のある多くの参加者同士が、体験を通して交流を深めました。高校生から高齢の方まで総勢150名近くの方が集う会場には、たくさんの笑顔があふれ、楽しい雰囲気のある体験交流の中にも、それぞれが多くの学びを得られる交流会となりました。今後、こうした取組が各市町でも行われ、障害の有無に関わらず、たくさんの人と関わる心地よさや学ぶ楽しさを味わうことができる学びの場が増えていくよう、努めていきたいです。

【交流会の感想】

- ・ボール運びリレーで、体を動かすことは楽しかった。
- ・初めて交流ができてよかった。
- ・いろいろな方と、障害があってもなくても平等に一緒に過ごすことができてとてもよかった。
- ・理解が深まると障害のある方が生活しやすくなると思う。
- ・活動を通してアイコンタクトやジェスチャー、言葉を交わすことで一緒に喜び合い、達成感を味わえたことがうれしかった。
- ・（今回のような）交流によって、関わる人々に学びが生まれ、成長できると思う。一人でも多くの考え方を变えていく必要がある。
- ・施設利用者（参加者）が一般の方と一緒に同じ活動を楽しむことをとても喜んでいました。本人はすごく自信をもった様子だった。



「ふれあい学習」は、子どもを核とした幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動を指します。ふれあい学習を通して、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもの「生きる力」を育むとともに、家庭と地域の教育力の向上を目指します。